

**トルコギキョウ切り花における白熱電球による電照の影響**

トルコギキョウ切り花栽培における白熱電球による電照は、①長日条件下では、茎伸長効果がある、②ブラシング軽減を目的とした電照効果は、蕾長 5mm までに消灯すると低下し、消灯時の環境によっては、蕾長 1.2cm まで電照する必要がある。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室（担当者：工藤陽史）

**研究のねらい**

トルコギキョウ切り花栽培では、短日期に白熱電球を用いて電照を行うと、①花芽分化促進、②茎伸長促進、③ブラシング軽減の効果があるが、長日期における効果は明らかにされていない。また、電照を収穫時まで行うと側枝や花柄の徒長・軟弱化を引き起こし、品種によっては切り花品質を低下させることが指摘されている。そこで、電照活用法を開発することを目的に①長日期の効果と②ブラシング軽減効果の高い生育ステージを明らかにする。

**研究の成果**

1. 長日期の白熱電球による電照（20 時間日長）は、主茎長の節間伸長を促し（図 1）、発蕾期で消灯すると側枝と花柄の伸長は抑制される（図 2、図 3）。
2. 短日期の白熱電球電照によるブラシング軽減効果は、蕾長 5mm（萼片は含まない）になる前に消灯すると低下する。さらに、消灯時の気候条件が、日長が短く、昼温が低く、日射量が少ない時期は、蕾長 5mm 以上に生長した蕾でも消灯後にブラシングするため蕾長 1.2cm まで電照する必要がある（図 4）。

**普及上の留意点**

1. 電照は、土表面から高さ 1.2m の位置に白熱電球（75w）を設置して、20 時間日長となるよう（16～22 時、2～8 時）に点灯した。
2. 長日期の白熱電球による電照の影響は、品種「ボレロホワイト」を平成 22 年 6 月 24 日にポットに定植後、20 日間を 9 時間日長の短日処理（夜間 17～9 時は 15℃冷房）を行い、その後、22℃換気のガラス温室で試験を行った結果である。
3. 短日期の白熱電球電照によるブラシング軽減効果は、品種「ボレロホワイト」を用いた平成 22 年の気象条件で行った結果である。

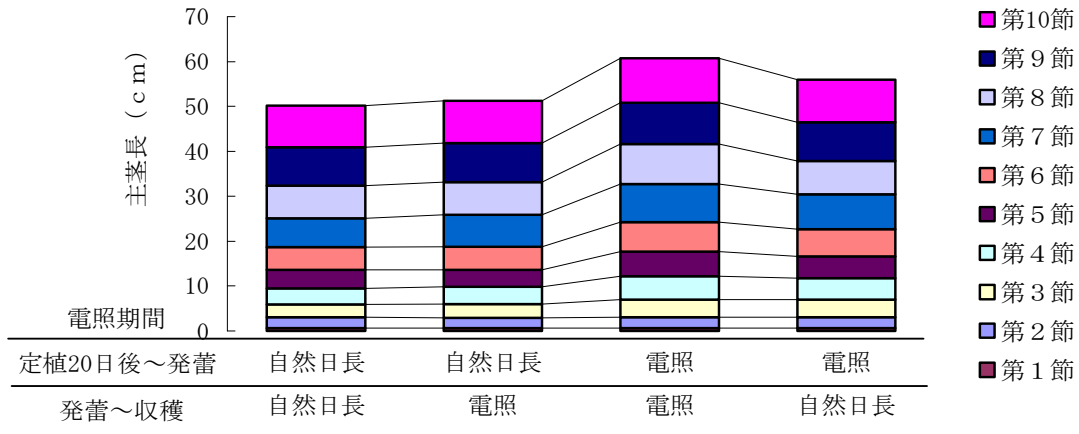


図1 長日期の白熱電球での電照が主茎節間伸長に及ぼす影響

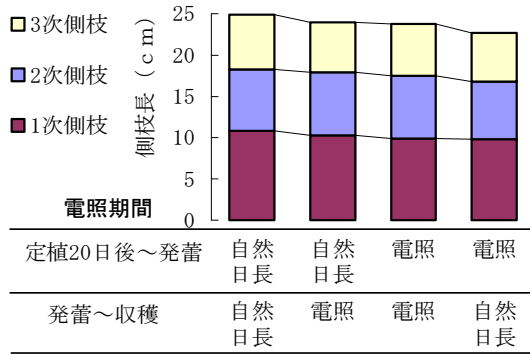


図2 長日期の白熱電球での電照が側枝伸長に及ぼす影響

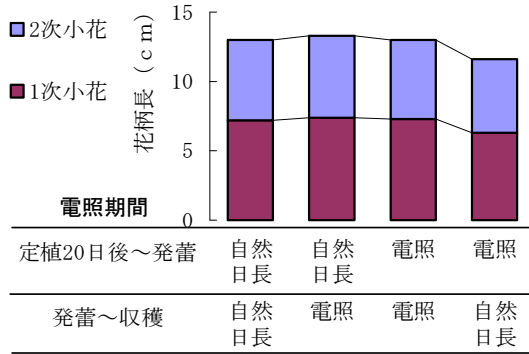


図3 長日期の白熱電球での電照が花柄伸長に及ぼす影響

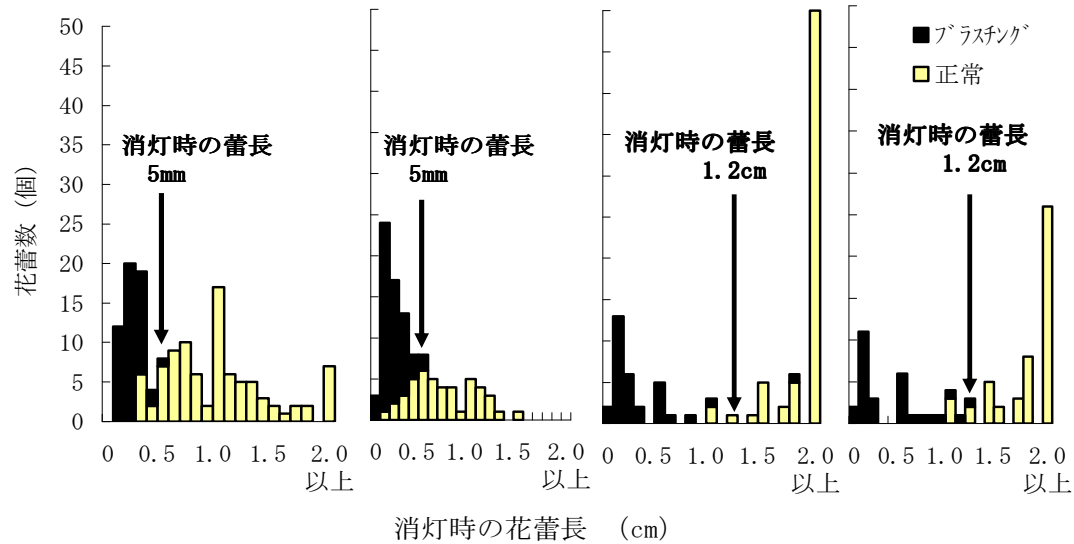


図4 電照消灯時の蕾の大きさとガラスング発生の関係